



コロナに負けてたまるか

★江差小学校「運動会」

ここに
注目!!

新型コロナウイルス感染症対策で交付金活用

令和2年第3回定例会が9月16日に行われ、条例の一部改正や各会計補正予算など、提案された案件を審議し、全て原案通り可決しました。

また、9人の議員が一般質問を行い、さまざまな観点から町政に問いかけました。



新型コロナウイルス 感染症拡大防止と地域経済対策等 総額約2億8,300万円の大型補正

補正予算

新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金事業

※新型コロナウイルス感染拡大を防止するとともに、感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活を支援し地方創生を図るため、経済対策の全ての事項についての対応として、地方公共団体が作成した実施計画に基づき、地域の実情に応じてきめ細やかに必要な事業を実施できるように創設された国の交付金事業

- | | |
|--|--|
| <p>◇高度無線環境整備推進
7,355万5千円 (国庫支出金他)
町全域に光ファイバによる情報通信基盤を整備。</p> <p>◇新生児特別定額給付金給付事業
270万円 (全額国庫支出金)
国の特別定額給付金の基準日以後に生まれた子どもへ、感染予防対策及び育児応援のために給付。</p> <p>◇インフルエンザ予防接種支援
978万3千円 (全額国庫支出金)
高齢者及び乳幼児等のインフルエンザ重症化予防とともに、医療機関への負担軽減のため支援。</p> <p>◇一般廃棄物収集運搬事業者給付金
40万円 (全額国庫支出金)
感染リスクの高い一般廃棄物収集運搬事業者に対する、感染予防対策に係る給付金支援。</p> <p>◇漁業者経営維持化安定対策
455万円 (全額国庫支出金)
厳しい経営環境にある漁業者に対し緊急的支援。</p> <p>◇漁協経営継続緊急支援対策
50万円 (全額国庫支出金)
漁協が行う水産資源の付加価値向上に向けた取組に対し、広域事業として構成町が支援するもの。</p> <p>◇“エエ町江差”みんなの商品券事業
4,300万円 (全額国庫支出金)
町民全員に町内で活用できる商品券を配布。</p> <p>◇町営レストラン感染拡大防止対策
33万円 (全額国庫支出金)
ガイドラインに基づく感染予防対策を講じる。</p> | <p>◇町立小中学校トイレ洋式化改修
3,117万1千円 (全額国庫支出金)
洋式化により、便器洗浄時の病原体飛散を防ぎ、感染リスク軽減を図る。</p> <p>◇学校再開感染症対策・学習保障等支援
1,093万2千円 (全額国庫支出金)
プロジェクターやテレビ等の大型提示装置整備。</p> <p>◇学校遠隔学習機能強化
40万円 (全額国庫支出金)
臨時休業等の際、学校と児童生徒のやり取りが同時双方向で円滑にできるように設備を整備。</p> <p>◇修学旅行貸切バス追加借上支援
73万7千円 (全額国庫支出金)
感染リスク低減のため、車内での密接を回避するため、貸切バスを1台追加する費用を支援。</p> <p>◇家庭学習対策通信機器整備支援
144万7千円 (全額国庫支出金)
臨時休業等の際、家庭学習等が可能となる通信環境を提供するための貸出可能な機器を整備。</p> <p>◇文化会館トイレ洋式化改修
78万3千円 (全額国庫支出金)
洋式化により、便器洗浄時の病原体飛散を防ぎ、感染リスク軽減を図る。</p> <p>◇新生活様式対応支援助成
2,000万円 (全額一般財源)
新しい生活様式を取り入れた感染予防対策、快適な顧客空間の創出、新たな営業スタイル等に取り組むために必要な経費を助成する事業が、当初見込みを上回る申請件数となり、増額補正するもの。</p> |
|--|--|

その他事業

- | | |
|---|--|
| <p>◇住民基本台帳システム改修
221万7千円 (国庫支出金他)
マイナンバーカード等の利用に関するシステム改修を行うもの。</p> <p>◇町道除雪対策
4,009万6千円 (全額一般財源)
町道の除雪に係る作業員の賃金や重機使用料、委託料等の経費。</p> | <p>◇水堀排水機場長寿命化対策
440万5千円 (道支出金他)
機器更新の追加工事に伴う経費。</p> <p>◇文化会館南側外壁補修
102万3千円 (全額一般財源)
老朽化に伴う外壁の状態が悪いため、冬期間の被害拡大を防ぐため、補修工事を行うもの。</p> |
|---|--|

第3回定例会 こんなことが決まりました！

条例改正

- ・江差町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する条例の一部改正
 - ・江差町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正
- 国の基準改正に伴い関係条文を改正するもの。

健全化判断比率等の報告

実質公債費比率 16.5%

早期健全化基準の25%と比較すると8.5ポイント下回っている。前年度と比較すると0.2ポイント改善している。

将来負担比率 72.2%

早期健全化基準の350.0%と比較するとこれを下回っている。前年度と比較すると3.5ポイント悪化している。

人事

- ・教育委員会委員の任命（再任）
加澤 優香子 氏（泊町・57歳）
任期は令和6年9月30日までの4年間。
- ・固定資産評価審査委員会委員の任命（再任）
横野 晃一 氏（中歌町・64歳）
任期は令和5年9月30日までの3年間。



決算認定

各会計の令和元年度決算認定について、閉会后開催される決算審査特別委員会に付託。

- ・一般会計歳入歳出決算ほか8会計

負担するため補正。

減額した給食費不足分を町が

137万3千円

(全額一般財源)

◆児童・生徒学校給食費負担

申請件数が当初見込みを上回り、予算不足が見込まれるため補正。総額1億円。

3,000万円

(全額一般財源)

◆新生活様式対応支援助成

江差町名誉町民、青坂氏の江差町表彰条例に基づく町葬に係る経費を補正。

【第4回臨時会】

377万円

(全額一般財源)

◆江差町名誉町民葬

22事業に対する補正。

交付金を活用して実施する、

1億1,998万2千円

(全額国庫支出金)

◆新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業

【第3回臨時会】

7月17日に第3回臨時会、10月13日に第4回臨時会が行なわれ、一般会計の補正予算について審議し、原案どおり可決、閉会しました。

内容は次のとおりです。

臨時会

臨時会

臨時会

臨時会

臨時会

臨時会

臨時会

臨時会

臨時会

臨時会

臨時会

本会議上での補正予算案への質疑等について、その一部を要約して紹介します。

学校の先生への負担軽減

来年度の取り組み

- Q GIGAスクール構想では、先生方に相当負担がかかる。どう支援体制を組むのか。
- A 今年度に機材環境整備を終え、具体的な人的支援は、来年度の取り組みとなる。

リモート学習の機材整備は

各家庭の状況調査し対応

- Q リモート学習整備にあたり、各家庭で、パソコンやタブレットを持っているという前提で進められているのか。
- A 各学校を通じて調査している。各家庭にある場合はそれを使用して頂き、ない場合は、今後整備する物の貸し出しで想定。

多目的トイレの整備は

交付金の主旨から外れる

- Q 今回の交付金事業で、避難所等に多目的トイレを整備すべきではないか。多目的トイレへの改修検討はされたのか。
- A 今回は新型コロナウイルス対策に係る事業が該当。多目的トイレ整備は、事業の主旨から外れてしまう。

その他

- ・北海道市町村総合事務組合規約の変更
- ・北海道市町村職員退職手当組合規約の変更
- ・北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

第3回定例会 行政報告

定例会で次のとおり、町長が行政報告をしました。



1 寄付採納について

- 道南うみ街信用金庫 理事長 藤谷 直久 様
江差産道南杉 木製ベンチ1脚（地域住民への感謝の気持ちとして）
- 第一生命保険株式会社函館支社
営業オフィス オフィス長 秋野 厚子 様
ハンディタオル41枚（小学一年生へのお祝いとして）
- 株式会社ユーラス江差風力
代表取締役 高瀬 達秀 様
現金190万円（地域振興のために）
- 株式会社北辰運輸 代表取締役 矢原 幸康 様
現金200万円（小中学生のスポーツ振興のために）
- 明治安田生命保険函館支社 支社長 石桁 健司 様
現金11万800円（私の地元応援募金として）

意見書を提出

9月定例会では3件の意見書を提出し、全て可決され、関係行政機関へ提出しました。

- ◆新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書
- ◆国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書
- ◆種苗法の改定に関する意見書

議会ホームページをご覧ください

定例会の日程、審議内容の他、平成24年度以降の会議録を閲覧することができます。

議会だよりは、紙面の都合上、一部省略して掲載しております。詳しくはHPにてご確認願います。

（議会HPアドレス）

<https://www.hokkaido-esashi.jp/gikai/gikai.html>



一般質問 九議員が町政を問う

議員にとって「一般質問」は、議場という公の場で、町長や教育長に対して町政運営の考え方や将来に対する方針を質することができる唯一の場です。

◆質問は要約されています◆

議会だよりのスペースの都合上、質問・答弁は要約したものを載せています。

◆表示の説明◆

文中の再、再再はそれぞれ再質問、再再質問を表します。



眞議員(無党派)

塚本

9月定例会 一般質問

新型コロナの教育現場への対応は

答 感染リスクを低減し運営

新型コロナウイルス感染症の影響により、長期休校への対応や、各種行事、消毒作業や感染予防の対応で教員は多忙を極めている。サポート体制をどのように行っているか。

また、本定例会での予算補正事業等を通じて、負担軽減と学びの保障に注力できる環境の整備に努める。



新しい生活様式による授業の様子

また、本定例会での予算補正事業等を通じて、負担軽減と学びの保障に注力できる環境の整備に努める。

また、最も注意を払うことはクラスターへの対応である。厚生省から、いち早く感染者に対する濃厚接触者、周りの人たちを守るためのアプリ、COCOA(ココア)が公開されている。感染を最小限に食い止めるには、非常に有効で、積極的にPRするべきと考え

また、最も注意を払うことはクラスターへの対応である。厚生省から、いち早く感染者に対する濃厚接触者、周りの人たちを守るためのアプリ、COCOA(ココア)が公開されている。感染を最小限に食い止めるには、非常に有効で、積極的にPRするべきと考え

PCR検査体制の構築を

答 今後も強く要請していく

また、最も注意を払うことはクラスターへの対応である。厚生省から、いち早く感染者に対する濃厚接触者、周りの人たちを守るためのアプリ、COCOA(ココア)が公開されている。感染を最小限に食い止めるには、非常に有効で、積極的にPRするべきと考え

また、最も注意を払うことはクラスターへの対応である。厚生省から、いち早く感染者に対する濃厚接触者、周りの人たちを守るためのアプリ、COCOA(ココア)が公開されている。感染を最小限に食い止めるには、非常に有効で、積極的にPRするべきと考え

また、本定例会での予算補正事業等を通じて、負担軽減と学びの保障に注力できる環境の整備に努める。

また、最も注意を払うことはクラスターへの対応である。厚生省から、いち早く感染者に対する濃厚接触者、周りの人たちを守るためのアプリ、COCOA(ココア)が公開されている。感染を最小限に食い止めるには、非常に有効で、積極的にPRするべきと考え

また、最も注意を払うことはクラスターへの対応である。厚生省から、いち早く感染者に対する濃厚接触者、周りの人たちを守るためのアプリ、COCOA(ココア)が公開されている。感染を最小限に食い止めるには、非常に有効で、積極的にPRするべきと考え

また、本定例会での予算補正事業等を通じて、負担軽減と学びの保障に注力できる環境の整備に努める。

また、最も注意を払うことはクラスターへの対応である。厚生省から、いち早く感染者に対する濃厚接触者、周りの人たちを守るためのアプリ、COCOA(ココア)が公開されている。感染を最小限に食い止めるには、非常に有効で、積極的にPRするべきと考え

また、最も注意を払うことはクラスターへの対応である。厚生省から、いち早く感染者に対する濃厚接触者、周りの人たちを守るためのアプリ、COCOA(ココア)が公開されている。感染を最小限に食い止めるには、非常に有効で、積極的にPRするべきと考え

新型コロナウイルス接触確認アプリのインストールをおねがいします

自分をまもり、大切な人をまもり、地域と社会をまもるために、接触確認アプリをインストールしましょう。

厚生労働省
新型コロナウイルス
接触確認アプリ
(略称：COCOA)
COVID-19 Contact Confirming Application

接触確認アプリは、新型コロナウイルス感染症の感染者と接触した可能性について、通知を受け取ることができる、スマートフォンアプリです。

1メートル以内、15分以上の接触した可能性

詳しくはこちら
厚生労働省のウェブサイトを

内閣官房 新型コロナウイルス感染症対策推進室 情報連絡体制(IT)推進部

(出典：厚生労働省ホームページ)



西海谷 望 議員 (無党派)

9月定例会 一般質問

第一次産業の産業基盤確立を 答 生産者と協議し実行する

過疎化、人口減少、そして本年は新型コロナウイルスの影響もあり、町を取り巻く環境は非常に深刻な状況で、江差の産業基盤の確立は喫緊の課題である。江差町は第3次産業が盛んな町である。しかし、農業、漁業等が活性化しなければ、第3次産業も盛んにはならず、町の経済発展も図ることができない。

第6次総合計画の基本構想で描いた将来展望を、どのように農業者の声を反映しながら具体化していくのか。
町長 第6次江差町総合計画は、産業別懇話会を開催し、その意見を反映した計画だが、事業実施にあたっては、これまで以上に踏み込んだ協議が必要。
農業では来年度から始まる北部地区の農業基盤整備事業の受益者負担のあり方や、スマート農業の推進。新たな地域ブランドとな

り得る農産物のあり方等、引き続き生産者と関係機関と協議を進める。

漁業では、回遊性資源に依存しない、新たな生産体制づくりが道半ばの状況。磯根資源の増大や地元水産物の品質の向上に向けた、船上活メ技術等、魚の価格安定のための取り組みを推進し、若手を含めた漁業者や関係機関と協議を進める。

地域産業力の強化と地域経済の活性化に向け、多くの生産者と協議を行い、条件が整った施策から実行する。
町長 現場に行き、若い人も含めた声を聞いている。農業者漁業者に限らず、1次産業、2次産業、3次産業、それぞれの産業別懇話会を実施しており、これは継続して頂きたい。

今後の各産業について、担い手という意味では、経済の安定と所得の向上を図ることが

最大の次世代へ引き継ぐための条件。特に若い人達の新たなチャレンジに対しても、現場の声を聞きながら支援をして頂きたい。来年度以降、どう考えているか。

産業振興課長 先般、メンバーが集まり、今後の活動方針について確認。来年度以降もやることを確認している。

一次産業の所得の向上では、農業は来年度の北部地区の基盤整備をきっかけに、新たなスタイル、作付け品目等勘案しながら進める。今年も担当、浜は厳しい。現場担当者としても感じている。

日本海の漁業はこれから大転換期を迎える。これまでの回遊性魚種から、創り育てるに転換していかなければならない。

町長からも現場の声を聞いて、形にして下さいという指示を受けている。



三業懇談会の異業種間によるプロジェクト事業



サケの稚魚放流事業 (五勝手港湾内)



飯田 隆一 議員 (無党派)

9月定例会 一般質問

江差高校通学の交通安全対策は

答 交通安全運動を推進

今年に入り、通学送迎用の家用車で事故2件が発生した。町として、通学における交通安全対策はどう考えているか。

町長 事故の原因はいずれも運転手の不注意と聞いている。通学送迎以外でも数件の事故が発生している。

これを受け、江差町交通安全運動推進協議会長名で、学校を含めた事業所、加盟団体へ、交通安全の励行について

の文書をだし、保護者を含め、会員や従業員へ周知頂くよう通知をした。

町では、今年度より町広報に交通安全情報コーナーを設け、各期における交通安全運動週間での注意事項等を情報発信。街頭啓発や飲食店への訪問啓発等、各関係団体との連携のもと実施。引き続き各種の交通安全運動を推進する。



通学送迎車の渋滞状況

江差高校通学バス代の援助を

答 総合的な検討をしたい

江差高校の通学事故を減らす一番有効な手立ては、町としてバス代の補助をし、親による家用車通学を減らしていくこと。

檜山北高校では、全員に半額のバス代の補助。乙部町が4月からバス代の3分の2の補助。上ノ国町も間接的ではあるが半分以上の支援をしている。私も厚沢部町議員を通じて、現状を説明し、要請をしている。

教育委員会として、江差高校通学バス代の援助について、どう考えているか。

教育長 バスが利用されない大きな理由は、バス運行便数そして運行時刻の関係から、部活動をはじめ各種行事等の教育活動のニーズに対応しきれないことが原因に挙げられている。今後、生活バス路線の確保をする中で、通学費助成を含め、総合的に検討すべきもの

と考える。

道内道立高校の再編整備が進められる中、地元中学からの進学率が向上し、高校の間口維持を図ることが課題である。生徒や保護者が江差高校に入学したい、させたいと思えるよう、高校が取り組む魅力づくりや特色づくりに対しての関わりを検討すべきもの。

町 同じ高校で、出身地により通学費用について格差がある。公平感に欠けるという見方もできる。

高校に対する自治体の支援が、道教委にとつて間口を維持するための大きな手立てになる。

関係4町、函バスとも協議をし、実態を調べる必要があると思うが如何か。

教育長 支援策が必要というのは同感である。バス通学費助成に限らず、生徒は目標をもって江差高校に入学しており、これらがかねえられるような支援策を検討したい。



通学バス利用者の様子



徹議員(無党派)

萩原

9月定例会 一般質問

旧江光ビル跡地の活用協議は 答 本年度内にあり方を示す

町政執行方針で旧江光ビル跡地の活用に関して、関係団体等との協議を進めるとあるが、商工会は二度にわたり調査を行ない、提言書を町に提出している。今後、どのようなことを協議していくのか。

2点目。町長は選挙公約に挙げたスポーツジムと交流スペースの複合施設を、現時点でも考えているか。

3点目。解体されて5年の月日が経つが、今後どのようなスケジュールで進んでいくのか。

町長 跡地に関して、総合計画の重点施策としては、商店街の拠点化の主たる事業として、土地利用の観点からは、エリア全体としての公共性と経済性を意識した利活用が必要とされている。また、都市計画マスタープランでは、多世代の交流を中心とした街中に人が集まり、散策でき、経済活動に

繋がる拠点としての整備が方針として位置付けられている。これらを意識したうえで、本年度内に整備のあり方を示し、議会との協議を重ねながら方針を決定していく。

今後の具体的な土地利用や施設整備方針は、商工会から提案頂いた5つのパターンから外れるものではないし、選挙公約で掲げた利活用の内容を基本としている。

方針が確定したら、議会、商工会等、関係先との協議を進めたい。町長 江光ビル解体後、今までの活用方法は、駐車場や花壇、クリスマスのイルミネーション、軽トラ市、ラジオ体操等である。

先ほどの特別委員会の委員会報告で、中央商店街の振興策の重点課題としての地域の高齢者、子ども達が集う法華寺通り商店街と連携した賑わいの場とな

り得る空間というような報告もある。

また、コロナの影響により、経済状況や新生活様式を考えると、商工会の調査報告書で5つのパターンがあったが、イベント広場や厨房付きの交流ホール、待合ギャラリ、トイレや駐車場という内容のイベント施設が、整備費やランニングコストも抑えられ、私はその方向で良いのではないかと考えているが如何か。

副町長 町長も答弁したとおり、商工会から頂いている、5つのパターンから外れるということはない。

特別委員会の報告にもあったように、あとは町の決断。

年度内に町の考え方を示し、議会と協議をさせて頂く。



地場産品の直売で盛況な「軽トラ市」



色鮮やかな花を子ども達の手により植栽



小林くにこ 議員 (日本共産党)

9月定例会 一般質問

認知症対策の今後のビジョンは 答 認知症理解と普及に努める

認知症対策にどのようなビジョンを持っているのか伺う。

一つ目。介護保険、要介護認定者のうち、認知症あるいは認知症の疑いのある方は、何名いるか。

二つ目。過去5年程度、町内で認知症によると思われる、事故、事件、トラブルの発生件数は何件あるか。

三つ目。町では、認知症サポーター養成や、見守り支え合いネットワークに取り組んでいるが、徘徊対策として、どう取り組んでいるか。四つ目。高齢者認知



児童にも認知症理解へ普及活動

症賠償保険に加入している自治体数は。

五つ目。愛知県東浦町が認知症高齢者等賠償事故補償制度をスタート。当町も保険制度を検討すべきと考えられているか。

町長 1点目。主治医意見書診断名に認知症との記載があるのは251人。意見欄に症状が見られる等の記載があるのは20人。

2点目。認知症が起因する発生事例はない。個別地域ケア会議では、相談事例は16件ある。3点目。認知症の症状や理解を地域に普及

定着させて行くため、認知症サポーター養成講座を開催。江差町見守り支え合いネットワークでは、高齢者に関する異変を感じた時、地域包括支援センターに情報を集める流れが出来ている。

4点目、5点目。全国39市町村が加入。町では、認知症が要因となるような困りごとが生じた場合、地域包括支援センターが適切なサービスに結び付けており、今後も関係機関と連携し、認知症理解と普及に努めたい。

再 新オレンジプラン、次のステップに進んで行かなければいけない。何か考えはあるか。

高齢あんしん課長 認知症対策の一番は理解。認知症になっても変わらない暮らしが出来る、優しいまちづくりが浸透出来るよう、これからは周知し、手を取り合いやって行きたい。

同時流行に備え相談体制構築を 答 保健所と連携を図る

季節性インフルエンザの流行と新型コロナウイルスの同時流行となれば、医療機関に電話が繋がらないとか、速やかな医療提供に支障をきたすなど、最悪の場合想定される。

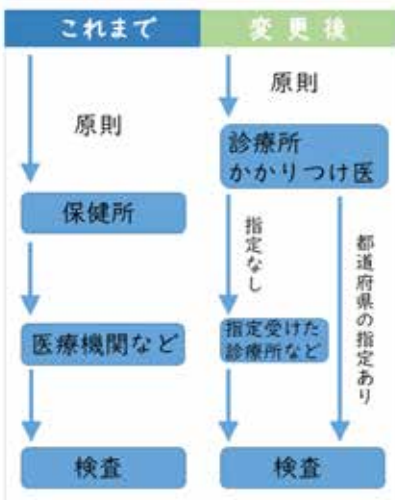
町は、保健所や医療機関と連携を取り、相談体制を構築して行く必要があると思うが、現段階での見通しは。

二つ目。もし世帯主が検査、隔離、入院した場合、同居の家族の生活がどうなるか等のシミュレーションが、対策マニュアル等で、各課の情報共有がされ

ているか。また、これらのシミュレーションやマニュアルに基づき、正しい情報を町民に積極的にすべきと考えるが如何か。

町長 発熱患者が増加すれば、医療機関に電話がつながりにくい状況も想定される。江差保健所と情報共有、連携を図り進める。

2点目。感染者により、対応はケースバイケースで難しい課題。江差保健所の指導等を頂きながら対応する。緊急性がある場合、町対策本部独自のチャシの全戸配布も考える。



相談・検査体制 10月中に変更へ

定例会
議案審議
行政報告
一般質問
委員会
出欠報告



小梅 洋子 議員 (無党派)

9月定例会 一般質問

健康寿命と生きがいづくり 答 地域主体の活動を取り組む

コロナ禍により、全ての活動が自粛で行動も制限され、その上、感染への不安も重なって気持ちが滅入りがちになる。自粛期間中に出不精になり、世間との関りを断ってしまえば、孤立し、うつ状態や、認知症の進行、身体能力の低下、特に気力の落ち込みが気になる。ただでさえ、外出を控え目にする冬場にあたり、このまま引き籠り状態が続く高齢者が増えないように、周囲での支え、目配りがより必要と思うが対策は。



健康づくり体操で体力づくり

町長 高齢者の健康づくりには、社会参加することが非常に効果的である。今後も、町内各地域における介護予防事業を実施し、それと並行して、地域が主体となった活動を取り戻せるよう、まちづくりカフェ、タウンミーティングを通じて、町内に点在している地域資源を結び付けることや、より一層、社会福祉協議会とも連携協力して、町民が支え合っ
て活力ある生活が出来るよう取り組んでいく。

カタカナ用語の使い過ぎ 答 行政情報は日本語表記で

テレビも新聞もカタカナ語とローマ字、アルファベットが溢れ、意味不明の新しい用語、表記に高齢者は本当に悩まされている。日本語でも十分わかる表現をどうしてそのままカタカナで表記するのか、時代の流れで仕方がないと理解しながらも、益々、多様な用語や表記が多くなる

と推察される。せめて、行政から示される大切なお知らせは、誰でも分かる日本語、優しい用語の表現を用いて、カタカナ用語を使い過ぎないように配慮が必要と思うが如何か。
町長 町から発行される広報紙やホームページは、簡潔に分かりやすい表現をすることで、

祭ばやし発表会の開催は

答 運営主体に伝え協議

今は無理かと思うが、コロナウイルス感染の広がりを考慮しながら、冬期間に子ども達による祭りばやし発表会の開催は如何か。

して盛り上がり、元気になってもらいたい。
町長 渡御祭の運営主体である、姥神大神宮祭典協賛実行委員会に対し、主旨をお伝えしながら、各山車保存会や、関係者の意見等を踏まえ、実施の有無を含めて、今後、どのような取り組みが出来るか協議したい。

閑散期の施設活用や、子ども達の元気、地域の一体化、祭りふるさと再認識のもととなる大切なこと。
本祭りが中止になった今年こそ、祭りばやし



子ども達による祭ばよしの練習

行政情報を伝える必要があり、なるべく日本語表記をするよう努めており、各課より发出される通知文書も、分かりやすい日本語表記を心がける。
どうしても専門のカタカナ用語を使わなければならぬ場合には、可能な範囲で注釈をつけたい。



出崎 太郎 議員 (無党派)

9月定例会 一般質問

かもめ島本体の活用方針は 整備方針を検討し相談する

この町は海岸に立地しており、山があり海があり、近くに島がある。この地の特色は、この立体的な三次元の地形にある。いにしえの人達は、この地の特色に着目し、それを活かしてここに町を造りました。それが先人の知恵です。私達が真に学ぶべきはこの積極的な創造の精神ではないか。

江差町の現状を考えた時、単に先人の遺産として、その恩恵を被るだけでは少し情けない。例えば、島の上へのアプローチにしても、今の階段だけでは高齢者のアクセスが困難。これからは町民も、そして観光客も高齢化してくる。

昔と今の大きな違いは科学技術の進歩にある。整備の仕方によっては、お金も時間も要することになる。しかし、まずはビジョン。どんな島が望まし

いのか、町民のための島のあるべき姿を追求し、その上で現在の科学技術を駆使して、魅力ある島の実現を図る、そう願う。道立自然公園特別地域の制約の中で、残すべきものは残り、遺産として活用するだけではなく、私たち町民の資産である島本体を、町づくりのために積極的に活用するべきと考えるが。

町長 かもめ島は江差町のシンボルであり、この町の歴史を作り上げた主要な資源である。高齢者からは、「愛着あるかもめ島へ気軽に登れるようにならないか」という声が寄せられている。

しかし、例えばエスカレーターのような構造物を島に整備するのは、現実的ではない。かもめ島上の展望や解放感、あるいは歴史的史跡等といった独特の魅力によって、観光客は元より、キャン

パー、更には町民においてもまだまだ多くの方々に目指して頂ける場所であると確信している。現在の自然環境を著しく変化させることはなく、今よりも、上り下りが楽な対応策が無いのか、あるいは島上で不便なく楽しめるための環境について、若干の整備が必要。早い時期に整備方針を検討し相談する。



▲ 島上への階段

▼ 島上の施設



かもめ島全景



大門 和幸 議員 (無党派)

9月定例会 一般質問

排水溝の改良が必要ではないか 答 各関係課の連携で対応

田沢橋の尾山町側の雨水排水溝は、降雨量が多い時、排水が間に合わなくあふれ、住宅前が浸水する。

現在は、降雨が予想される時に土嚢積みにて対応しているが、住民は不安で寝れない時もあるとの声がある。

については、排水溝の改良が必要と考えるが、今後の対応、検討は。

町長 当時、周辺道路排水のほとんどが当該箇所集中する状態となっており、これまで周辺道路の排水を分散させるための対策などの措置を講じてきた。その結果、この数年の降雨においては、浸水被害等は発生しておらず、一定の効果が得られていると考えている。近年の全国的な異常気象による短時間で集中して降る、いわゆるゲリラ豪雨等が各地で発生している状況であり、指摘の箇所を含め、町内の複数の注視すべ

き箇所もある。今後は、これまで同様、土嚢の配置等、防災減災対策等、各関係課が連携して対応していく。



降雨対策のため、玄関前に土嚢積み



車道より低区となっているために雨水が流入



小野寺 真 議員 (日本共産党)

9月定例会 一般質問

核のゴミの地層処分に反対を

答 まだまだ勉強不足である

国と電力会社は原発利用を押し進め、処理困難な核のごみ、その処分場を自治体に押し付けようとしている。

政府が地層処分を法律で決めたが、科学的にも確立されていない方法であり、再検討することを求めること。

地層処分の方向性が打ちだされている自治体があるとすれば、問

題点を指摘し、反対することが求められると思うが、町長の認識を伺う。

町長 最終処分場建設誘致は全く考えてない。調査への応募も、まちづくりの選択肢として持っていない。

現在、その町の住民によって賛否の議論が進められている段階。その議論の推移を注視

大規模盛土造成地の対策は

答 年度内に周知、検討する

土砂災害警戒区域、特別警戒区域。何戸、人数、調査の完了日、住民説明会の状況は。

二つ目。南が丘地域が大規模盛土造成地だと、該当住民は知らない。今後の対策は。

南が丘ふれあいセンター避難、何人収容出来るか。

町長 住宅戸数45世帯、76名。令和元年度で全

ての基礎調査が終了。早い時期に住民説明会に取り組み。年度内を目途に周知検討する。

127人が3密対策での最大人数。**再**警戒区域ということを知らない人もいる。何らかの体制を日常からやって行くべき。

洋上風力に対する意見が必要

答 具体的な議論はこれから

事業者から方法書はいつ出て来るのか。説明会も義務付けられており、意見を言っていくことが必要。今後どう進めるのか伺う。

漁業関係者との話し合いをおさえているか。風車がどこに建てられるのか。沿岸漁業が壊滅するのではないかと心配。離岸距離、もっと距離をとることを、事業者等に言う必要があると思うが如何か。

町長 檜山管内洋上風力連絡協議会を設置。事業の理解を深め、メリット、デメリットを整理していく。

今後、示される方法書の段階で、具体的な

議論がされる。なお、ひやま漁協では、通常総代会において、洋上風力の推進協力について決議されている。

今後の検討委員会で課題の整理をしていく。**再**業者を呼んでの説明会等、考えているか。漁協と意見交換する必要があると思うが。

ゾーニングについてどう考えているか。**まちづくり推進課長** 促進区域、有望な区域になっていない状況の中では厳しい。

規制は、今後検討。**再**検討会等やらなければ何も分からない。

町長 しっかり議論をし、向き合っていく。



千葉県銚子沖の洋上風力発電 (東京電力リニューアブルパワーHPから引用)

定例会
議案審議
行政報告
一般質問
委員会
出欠報告

～常任委員会、特別委員会、今はこんなことを調査しています～ よりよい町づくりのために

江差町総合計画等特別委員会『江差町総合計画等に関する事務調査』

江差町総合計画等特別委員会（室井正行委員長）は、令和元年第3回定例会で事務調査をおこし、担当課の説明を求めるとともに、調査をした結果について、次のとおり意見を付して報告した。

本意見書は、行政側と連携を図り、できる限り整合性の確認を行い、行政と議会は激しい議論を経ても、「共に汗をかく」、「口先だけで終わらない」という強い使命感を抱いて提案する。

1 かもめ島入口の国道周辺を含めた北の江の島構想

① かもめ島ゾーン

- ・かもめ島は北前船等の歴史を後世に伝える貴重な自然遺産。そのままの魅力で伝えることが最も重要。歴史的背景を伝える説明看板内容の充実、かもめ島へ誘導する「ランドマーク」が必要。
- ・北海道教育委員会等と協議し、北前船係船柱の復元など検討すべき。
- ・「旧花月」は、有利制度を活用した早期解体を進めるべき。

② にぎわい空間ゾーン

- ・老朽化がすすんでいる開陽丸記念館（船体）の長寿命化対策が急がれる。
- ・南埠頭は多目的機能の充実を図るべき。「道の駅」展開も視野に、広い空間を有効活用した対策を。

③ 国道交差点周辺ゾーン

- ・急カーブ交差点改良のみの交通安全対策ではなく、周辺の一体となった具体的計画の策定を。
- ・北前船交易の象徴を表すランドマーク設置、ミニ水族館、活魚センターなどの検討を。

2 中心市街地活性化対策

① 愛宕町、法華寺通り商店街の継続可能な具体的活性化対策

- ・地元で買い物ができるためにも既存商店への支援策を進めていくことが必要。
- ・歴史遺産として民間所有の土蔵建築物が点在。歴史景観地区の指定など、保存・伝承に努めること。
- ・自治活動の拠点となる集会施設の整備や、山車保管庫の地区内整備等も検討すること。

② 遊休老朽施設の解体・活用に向けた権利者との協議

- ・中央商店街の大きい老朽施設は、景観と立地条件の優位性を阻害しており、課題解決に取り組むこと。
- ・老朽化した官公庁庁舎は、各種官公庁の出先機関のある江差町として、その解決策に向け支援をすること。

③ 空地の跡地利用の早期活用策の計画立案

- ・旧江光ビル跡地の活用は、江差町の決断だけである。にぎわいの場と成り得る空間の早期事業化を進めるべき。
- ・民間の空き地は、所有者に対し将来活用計画などの意向調査を具体的に進めるべき。

④ 歴史的建造物及び周辺用地の整備と横山家の早期運営体制の確立と営業再開

- ・「歴史的建造物活用推進モデル支援事業」は、来年度以降、具体的な事業化に向けて更に進めていくこと。
- ・横山家との話し合いは、町としての具体的なプランを示しながら、積極的に進めること。

3 交通体系

- ① 町内の買い物バスの再開。かもめ島周辺のにぎわい創出と買い物楽しみバスツアーなど、買い物難民対策、にぎわい創出策として進めていくこと。

- ② 函館バスが今後も存続していくため、上記の事業は、函館バスに対する委託事業として進めていくこと。

4 産業振興、担い手確保と定住人口対策

① 農業について

- ・農業の後継者不足と高齢化が深刻な課題。より効率的な農業（スマート農業）の推進や担い手への農地の集積（農地取得や賃貸に対する手厚い支援）と重労働な農作業の軽減化（スマートスーツの導入）等の支援策を進めること。

② 漁業について

- ・回遊性魚種に頼らない、道や民間の試験研究機関と連携した、新たな栽培漁業へのチャレンジを進めること。

③ 担い手確保と定住人口確保について

- ・地元の金融機関と連携した創業支援や町の起業支援事業を積極的に進めること。空き店舗を活用したICT（情報通信技術）を活用したテレワーク等を推進すること。

5 高規格幹線道路

- ① 協議会の要望活動は、地域、江差町にとって、一層の効果的、重点的な要請を行うこと。

- ② 当町の災害時対策としても早期着工が必要であり、江差町の町民を挙げた活動となるよう、町内組織を設立すること。

□ 新型コロナウイルス感染症への対応

日本全国の社会・経済活動に多大な影響を与え、また、いまだ世界中で広がっている新型コロナウイルスは、これからの地方行政の在り方へも大きく影響を与えるものである。

日本では、緊急事態宣言が5月から段階的に解除され、出口戦略を模索する動きが始まっているが、関東中心にまた感染の広がりが見えてきている。ワクチンや特效薬が量産されるまで、「新しい生活様式」への行動変容を中心とした、年単位での長い取り組みが、行政としても必要となる。

江差町としても、政府の新型コロナウイルス対策の動きを機敏にとらえ、また、町内の経済・観光・暮らし・医療情勢等を的確に把握したうえで、江差町の新年度予算や諸計画の随時見直しと的確な予算執行が求められる。

調査中です!

総務産業常任委員会『町営住宅に関する事務調査』

社会文教常任委員会『介護保険事業に関する事務調査』

総務産業常任委員会（西海谷望委員長）と社会文教常任委員会（塚本真委員長）は、現在、継続して調査を行っています。担当課からのヒアリングを行うなど、委員会で調査を行いながら、どのような報告とすべきか話し合われております。

全員協議会を開催しました！

7月13日、17日及び9月1日に開催した全員協議会について、その内容をお知らせします。

7月13日

- ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（第2次補正）について

先の感染拡大防止、雇用の維持と事業の継続を更に強化し、特に新しい様式化で、保育や教育環境の改善にも力を入れ、経済活動の回復に重点をおいた事業について説明がされた。

7月17日

- ・江差町名誉町民「青坂満」氏ご逝去に伴う江差町町葬の執行について

江差町表彰条例の規定に基づき、江差町の町葬で執り行い、係る経費について臨時会で追加議案として提案することについて説明がされた。

9月1日

- ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（第2次補正）について

地方創生臨時交付金を充当する事業の補正予算を提案するにあたり、各事業の概要と、町内未整備地区への光ファイバの整備に伴う高度無線環境整備促進事業について説明がされた。



出欠状況をお知らせします！

令和2年7月1日から9月30日の出欠状況です。斜線部分は出席する必要のない会議です。

会議名	会議日	総務産業常任委員会						社会文教常任委員会					議長 打越東亜夫
		西海 容望 (委)	出崎 太郎 (副)	薄木 晴午	飯田 隆一	小野 寺真	萩原 徹	塚本 眞 (委)	小林 くに (副)	室井 正行	小梅 洋子	大門 和幸	
第3回定例会	9月16日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第3回臨時会	7月17日	○	○	○	●(病欠)	○	○	○	○	○	○	○	○
全員協議会	7月13日	○	○	○	●(病欠)	○	○	○	○	○	○	○	○
	7月17日	○	○	●(私用)	●(病欠)	○	○	○	○	○	○	○	○
	9月1日	○	○	●(私用)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総務産業常任委員会	7月20日	○	○	○	●(病欠)	○	○	△	△	△	△	△	
社会文教常任委員会	7月28日	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	
議会広報特別委員会	7月9日	○	○	△	△	△	△	○	○	△	△	○	
	7月17日	○	○	△	△	△	△	○	○	△	△	○	
議会運営委員会	7月17日	○	△	△	●(病欠)	○	△	○	○	△	△	○	
	8月28日	○	△	△	○	○	△	○	○	△	△	○	
	9月8日	○	△	△	○	○	△	○	○	△	△	○	
決算特別委員会	7月28日	○	○	●(私用)	○	○	○	○	○	○	△	△	
	9月16日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	
江差町総合計画等特別委員会	7月21日	○	○	●(私用)	●(病欠)	○	○	○	○	○	○	△	

○：出席 ▲：欠席（公用） ●：欠席（葬儀・病欠・私用）

江差町議会における 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

定例会・臨時会・各委員会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「新しい生活様式」に合わせた開催方法を検討し、次の対策を講じました。

【議場・委員会室】

◆議員席・執行部席・傍聴席において、それぞれの間隔を空けました。



◆会議中は、換気のため、議場・委員会室内のすべての扉を終始開放しました。



【議事運営】

◆町長・教育長の執行方針を文書配布とし、既に全員協議会で説明している提案理由は一部省略としました。

◆一般質問時、演台ではなく自席で行いました。

◆会議時間短縮のため、一般質問は、再質問をせず、一回の質問で終了するように努めました。



【議場・委員会室へ入場する全ての方に協力を求めました。】（町議会ホームページに「傍聴時のお願い」を掲載。）

◆マスクの着用
◆手洗い、手指のアルコール消毒

議会の動き

- | | |
|-------|--|
| 7月28日 | ◆江差町各会計決算審査特別委員会
(出席9名、欠席1名)
・令和元年度江差町各会計決算の審査
◆社会文教常任委員会(出席5名)
・介護保険事業に関する事務調査 |
| 8月28日 | ◆議会運営委員会(出席6名)
・第3回定例会の運営について |
| 9月1日 | ◆全員協議会(出席11名、欠席1名)
・江差町新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(第2次)について |
| 8日 | ◆議会運営委員会(出席6名)
・第3回定例会の運営について |
| 16日 | ◆第3回定例会(出席12名)
◆江差町各会計決算審査特別委員会(出席10名)
・令和元年度江差町各会計決算の審査 |
| 10月7日 | ◆議会広報特別委員会(出席5名)
・11月号議会だよりについて |
| 12日 | ◆檜山広域行政組合第2回定例会
◆江差町・上ノ国町学校給食組合議会第2回定例会 |
| 13日 | ◆議会運営委員会(出席5名、欠席1名)
・第4回臨時会の運営について
◆第4回臨時会(出席10名、欠席2名)
◆総務産業常任委員会(出席5名、欠席1名)
・町営住宅に関する事務調査 |
| 20日 | ◆議会広報特別委員会(出席5名)
・11月号議会だよりについて |

議会を傍聴しましょう！

次の定例会は12月です。
日程は町広報誌やホームページでお知らせします！

江差町議会本会議は、どなたでも傍聴することができます。

町民の皆様が選んだ議員の活動状況や、町政の方針などを議場で確かめましょう！

議会の傍聴は、受付後、出入りは自由で、都合のいい時間で傍聴できます。

皆様の傍聴をお待ちしております！

今号の表紙

☆江差小学校運動会

今年はコロナ禍での運動会でしたが、天候にも恵まれ、子ども達は秋空の下で、運動会スローガン「フル・パワー～心を1つに」のもと、徒競走やリレーなど一生懸命頑張っていました。ご観覧の皆様も子ども達の頑張る姿を応援していました。子ども達の真剣に取り組んでいる姿を見ることができ、久しぶりの学校行事での笑顔に元気をもらった気がしました。



(撮影者：大門 和幸 議会広報特別委員会委員)

議会からのお願い 議会だより取材のため、議員が写真撮影に伺うことがあります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



この用紙は、原材料の一部に道産間伐材を使用しています